

コミュニケーション方略としての「言い換え」 —その指導内容と方法に関する基礎的研究—¹⁾

高塚 成信

Abstract: This paper reviews the literature on practical and empirical approaches to teaching paraphrase as a communication strategy and finds that the notion of paraphrase in the studies has been very limited. It then attempts to investigate what it means to paraphrase by analyzing paraphrastic expressions used in a monolingual dictionary and a pedagogical grammar book. This analysis is hoped to yield a list of some techniques or patterns of paraphrase, both at and beyond the lexical level, which second language learners may profitably exploit to avoid and solve communication problems they encounter in speech production. The paper makes a pedagogical proposal that paraphrase exercises should be integrated into English lessons, on a regular basis, in which learners are encouraged to paraphrase every single sentence in their textbook by using some of the paraphrastic techniques identified. The plausibility of this proposal has partly been tested by an attempt to paraphrase sentences in some textbook materials.

Keywords: paraphrase, communication strategy, strategy training

0 はじめに

コミュニケーション方略 (communication strategies、以下 CS と略す) としての言い換えには、言語生成における話し手自らの語彙、文法、発音などに関する言語知識や言語運用上の問題を克服する目的で行なわれる心理言語学的な性質のものと、対話相手との意味の交渉において必要になる相互作用的な性格のもの2種類がある。

前者には、伝統的な CS 研究において、paraphrase、approximation、circumlocution などという名称で分類されてきた CS (e.g. Tarone 1977) が含まれ、後者には、話し手が相手の理解を促進させる目的で自分の先行発話の言い換えをするもの (self-reformulations: Williams et al. 1997) と、自分が理解した相手の発話の意味を確認する (confirmation checks) ために相手の先行発話の言い換えをするもの (extended paraphrase: Tarone and Yule 1989、other-reformulations: Williams et al. 1997) とがある。

これらはいずれも、第2言語学習者が円滑にコミュニケーションを行う上で必要不可欠なものである。言語生成は、結局のところ、自分の言いたいことを自分

の言語能力の範囲内で表現するために、どのように言語化すればよいのか、すなわち、どのように言い換えをすればよいのかを、常に考えるプロセスであると考えられるからである。

それにも関わらず、第2言語教育におけるそれらの指導については、Dörnyei and Thurrell (1991: 17) によって指摘された、「方略的能力は、最も無視されたコミュニケーション能力の構成要素である」という状況は、Dörnyei and Scott (1997: 203) による「第2言語学習者は言語的困難との格闘に多大な時間と労力を費やしているにも関わらず、第2言語教授は一般にそのような言語運用上の問題に対処できるよう学習者を指導してはいない」という指摘を待つまでもなく、殆ど変わっておらず、指導のあり方の検討及び指導の実施が急務となっている。

そこで本論は、言い換え指導の現状と問題点を踏まえながら、言い換えとはどういう操作なのかということ英英辞典と文法書の言い換えの分析を通して明らかにし、その上で、言い換え指導の内容と方法を提案することをその目的とする。

岡山大学教育学部英語教育講座 700-8530 岡山市津島中 3-1-1

Teaching paraphrase as a communication strategy: issues and a proposal

Shigenobu TAKATSUKA: Department of English Language Teaching, Faculty of Education,
Okayama University, Tsushima-naka, Okayama, 700-8530 JAPAN

1 言い換えの指導：現状と問題点

それでは従来、第2言語としての英語指導の中に全く言い換えやその指導の要素がなかったのかと言うとそうではない。また、言い換え指導の実践や研究が行なわれてこなかったわけでもない。そこで先ず、言い換えの指導について、その現状と問題点を考察する。

(1) 英語授業における言い換え

伝統的な英語授業において行なわれてきた言い換えには、教師主体のものと生徒主体のものがある。前者は、教科書編集者による原典の単純化(simplification)のための書き換えを初めとして、教科書本文の内容のオーラル・イントロダクションのための言い換え、英英辞典の定義文(書き換え文)を用いた新出単語の意味の導入、及びALTによる本文の言い換えなどの形で実践されてきた。

他方、生徒による言い換えは、話法や態の変換を初め、too...to と so...that との相互の書き換えに代表されるような、意味的に互換性のある文法項目及び熟語間の書き換え練習という形で主に行なわれてきた。

しかしながら、これら2種類の言い換え及びその指導の要素は、本論が問題にしている学習者のコミュニケーションにおいて生じる言語理解及び表出上の問題の回避・解決の手段としての言い換えを十分に意識したものではなく、より広範で体系的な言い換への指導が必要であると考えられる。

(2) 言い換えの指導の実践的研究

そのような言い換え指導の必要性は一部の第2言語教育者及び研究者、例えば、Tarone (1984)、Willems (1987)、Nelson (1989)、Dörnyei and Thurrell (1991) (1992)、平野 (1992) (1993)、Takatsuka (1996)などによって意識され、言い換えは、単独であるいは多くの場合、他のCSとともに指導実践が行なわれてきた。

それらの多くにおいては、言い換えを必要とするタスクが学習者に与えられるとともに、言い換えに必要な言語項目が特定され指導されている(Tarone 1984、Dörnyei and Thurrell 1992)。

(3) 言い換えの指導の効果に関する実証的研究

言い換えの実践や実践的研究に加えて、言い換えやその他のCSの指導の効果を実証的に明らかにしようとする試みが、Dörnyei (1995)によって大規模に行なわれたのを契機として、その後いくつも行なわれた(e.g. 梶原(他) (1996)、小林(他) (1996)、千田(1996)、

広瀬(1997)、Kitajima (1997)、Cohen (1998))。

それぞれの研究は、被験者(中学生から大学生まで)、指導の期間(6週間から6ヶ月)、指導内容、同時に指導されたCS(fillers, appeal for assistance)、などにおいて異なっているが、目的は指導の効果を確かめることで共通している。

しかしながら、言い換えの指導に限れば、その効果の有無についての結果は様々ではない。Dörnyei (1995)は、指導によって定義(言い換え)の質は向上したが、遠まわし表現(言い換え)の使用頻度には変化がなかったとしているのに対して、梶原(他) (1996)、小林(他) (1996)、Kitajima (1997)、Cohen (1998)は効果あり、千田(1996)、広瀬(1997)は効果なしとしている。

(4) 言い換えの指導に関する研究の問題点

このように言い換え指導の効果の有無に関して異なる結果が出る原因はどこにあるのか。あるいは、効果ありとなっている場合にも、そのまま信じていいのか。これら実践的、実証的研究に共通すると思われる問題点は何かを次に検討する。

① 指導内容及び方法が十分に検討されていない

言い換えが一つのCSとして指導されていると言っても、多くの研究において、単語レベルでの言い換への指導しかなされていない。しかもせいぜい言い換へに有効であると思われる言語項目の指導をするか、ただ単に言い換への機会を与えるだけで、どのような言い換へが可能なのかについて系統的な指導がなされているわけではない。

また、言い換への指導の対象とされているのが主に通常名詞一語で表される概念の遠まわし表現(circumlocution, description)に限られている。しかしながら、Kasper and Kellerman (1997:9)が述べているように、言い換へには、語彙レベルのみならず、意味論レベル、統語論レベル、語用論レベルのものがあると考えられる。

Dörnyei and Thurrell (1992)によって作成された教材においても、paraphrase や reformulation がタスクとして設定されているが、言語的なリソースとして与えられているのは a kind/sort of..., the thing you use for..., it's a bit like... (p. 66) や What I really meant was.../Do you mean...?/Are you saying...? (p. 62) などだけで、その後続くべきより本質的な言い換への部分については何の指導もなされていない。

また、広瀬(1997)においては、中学1年生だけを対象にして言い換への指導が行なわれ、その結果、指導の効果がなかったと報告されている。中学1年という

学習初期の段階から言い換えの指導が必要であるし、また可能であるにしても、より広範なレベルの学習者を対象とした研究である必要があると思われる。

② 言い換えの指導が通常の授業の一部になっていない

多くの研究において、CS の指導が短期間で、しかも特別な活動として行なわれ、授業の不可欠な活動として組み込まれていない。

小林 (他) (1996) の指導期間は 6 ヶ月であるが、実際の指導はせいぜい 15 回であったことを考えると、言い換えを含む CS の指導が、毎時間の授業に必要不可欠なものとして埋め込まれていたと言うより、付け足し的に行なわれていたに過ぎないと言わざるを得ない。

③ 指導の効果の測定方法が十分に検討されていない

指導直後の、しかも言い換えという CS の使用頻度 (それも特定表現を使用した言い換え) という量的なものさしで指導効果が測定されている場合が多い。このように限られた指標で測定して効果があったとしても、その持続性については何の保証もない。すなわち、言い換え能力の測定の妥当性及び信頼性が低い。

2 言い換えとはどういう操作か

以上のように、これまでの言い換えの指導においてその対象とされてきた言い換えというものは非常に限られたものであった。また、言い換えの指導の効果を実証的に確かめようとする研究も、指導の効果の有無を突き止めることを急ぐ余り、十分に言い換えというものの検討が行われないうままに指導が行なわれ、さらにその効果が不十分に測定されてきた。

そこでまず、指導の内容と方法を考えるために、指導の対象となる「言い換え」という操作そのものを、十分に検討しておくことが必要であると考えた。

ある単語がうまく使えない、あるいは相手に理解されないために言い換えの必要がある場合、文中のその単語が占めるべき場所に、他の単語、表現を置き換えようとする解決の方法は、'local solutions' と呼ぶことができる。それに対して、文中のその単語及びその単語の位置を超えて、文の他の要素との関係によって解決を図ろうとする方法は、'global solutions' と呼ぶことができる (高塚 印刷中)。

従来の言い換えの研究においては、単語レベルでの問題の回避・解決、すなわち 'local solutions' に焦点が当てられてきた。Tarone (1977)、Færch and Kasper (1983)

に代表されるような CS の分類法を見ればそれは明らかである。また、Konishi (1994)、Imajo (1997) はそれぞれ名詞及び動詞の定義文の分析から、言い換えに有用と思われる言語項目を抽出しているが、基本的に 'local solutions' しか考慮していない。今後は、local/global 両方を視野に入れた言い換え指導を心がける必要がある。それによって、自分の言語能力の範囲内でより柔軟に問題に対応することが可能になると思われる。

例えば、「彼は私の甥です」という命題において「甥」を表す 'nephew' が分からないとき、「He is my brother/sister's son.」と言えば、本来 'nephew' が占める位置にそれを分析的に (分解して) 説明する 'brother/sister's son' を入れた 'local solution' であるが、「叔父 (叔母)」を表す単語を知っている場合には、文の主語を変えて、「I am his uncle/aunt.」とすることによって 'nephew' を使用しなくても済むようにした 'global solution' である。これは、Færch and Kasper (1983) によって 'restructuring' という CS として分類されながら、これまで十分に指導の対象として検討されてこなかったものである。

3 言い換えるパターン

そこで、local/global 両方を視野に入れ、言い換えがどのような操作であるのかを明らかにする目的で、辞書などにおいて実際にどのように言い換えがなされているのかを分析し、そこから言い換えるパターンを見つけようと考えた。

(1) 分析の対象

The Electronic Oxford Wordpower Dictionary (1995) (以下 EOWD と略す) の例文中、「ie」で示されたもの全て (N=24) と、a から i までの見出し語のもとに「=」で示された例文 (N=582) 及び Murphy (1994) *English Grammar in Use*. (以下 EGU と略す) に「=」で示された例文 (N=237) を分析の対象とした (N=843)。

学習英英辞典や学習文法書における言い換えは、学習者に例文の意味をより明確に、あるいはより平易に伝えるためのものであり、本論で問題にしている言い換え全てに必ずしも直接的に妥当性があるわけではない。

しかしながら、言語理解を容易にするための言語的工夫の多くは、言語表出上の問題を解決するのににも有用であると考えられる。とりわけ、第 2 言語より能力の高い母語で一旦言語化した文を第 2 言語へ翻訳しようとする学習者の傾向を考えるとなおさらである。

言い換え文の分析に当たっては、どのような意味の操作と言語形式の操作が行なわれているのか、また両者の関係はどのようなものであるのかを分析の焦点

とした。

(2) 意味の操作

例文を分析した結果、元の文と言い換え文との間で次のような意味の操作が行なわれているように考えられる。

①なし

- ①近似化：近い意味に置き換える
- ②一般化：より一般的な意味に置き換える
- ③具体化：例を挙げる、具体的に説明する
- ④単純化：意味を削除する
- ⑤複雑化：意味を追加する
- ⑥相対化：別の視点から述べる
- ⑦絶対化：絶対的基準を視点とする
- ⑧分割化：意味を分析して説明する
- ⑨統合化：意味をまとめる
- ⑩間接化：前提や帰結を述べる、喩える
- ⑪直接化：より直接的に述べる、喩えをやめる

(3) 言語形式の操作

次に、上のような意味の操作が、どのような言語形式によって実現されているのかを分析した結果、次のような言語形式の操作が見られた。

- ㊦同意語（表現）を使用する
- ㊧上位語（表現）を使用する
- ㊨等位語（表現）を使用する（否定する）
- ㊩下位語（表現）を使用する
- ㊪類義語（表現）を使用する
- ㊫関連語（表現）を使用する
- ㊬反意語（対立語）（表現）を使用する（否定する）
- ㊭数字を使用する
- ㊮主語を変える
- ㊯品詞を変える（派生語の使用を含む）
- ㊰節を句に、句を節に変える
- ㊱複数の語や文で表現する
- ㊲単一の語や文で表現する
- ㊳ダイクシスを使用する（仮定法を含む）
- ㊴態を変える
- ㊵語を削除する
- ㊶語を追加する
- ㊷文の種類を変える（平叙文→疑問文など）

(4) 意味の操作と言語形式の操作との関連

以上のような、言い換え文に見られる意味の操作と言語形式の操作との関連については、次のような組み合わせがあると考えられる。なお、実際の例文にはなかった組み合わせでも、重要と判断したものについては、適宜例文を作成して入れた。ただし、それでもなお、操作の組み合わせが網羅されているわけではない。

なお、意味の操作と言語形式の操作毎の言い換えの例については Appendix 1 に示した。

- ①なし：
 - ㊦同意語（表現）を使用する
 - ㊯品詞を変える
 - ㊰句を節に変える
 - ㊴態を変える
- ①近似化：
 - ㊪類義語（表現）を使用する
 - ㊫関連語（表現）を使用する
- ②一般化：
 - ㊧上位語（表現）を使用する
- ③具体化：
 - ㊩下位語（表現）を使用する
 - ㊫関連語（表現）を使用する
 - ㊭数字を使用する
 - ㊮主語を変える
- ④単純化：
 - ㊵語を削除する
- ⑤複雑化：
 - ㊶語を追加する
- ⑥相対化：
 - ㊨等位語（表現）を使用する
 - ㊬反意語（対立語）を使用する
 - ㊮主語を変える
 - ㊳ダイクシスを使用する
 - ㊴態を変える
- ⑦絶対化：
 - ㊭数字を使用する
- ⑧分割化：
 - ㊱複数の語や文で表現する
 - ㊯品詞を変える
- ⑨統合化：
 - ㊲単一の語や文で表現する
- ⑩間接化：
 - ㊫関連語（表現）を使用する
- ⑪直接化：
 - ㊫関連語（表現）を使用する
 - ㊵語を削除する
 - ㊷文の種類を変える

(5) 問題点

①意味の操作間の関連

以上のように言い換えの操作を分類したが、意味の操作に関しては、カテゴリー間にかかなりの重複があるように思われる。例えば、間接化という意味の操作は、意味の近似化という操作でもありと考えられる。また、意味の一般化、さらには意味の分割化は多くの場合、意味の要素を削除してしまっているため、意味の単純化でもあると言える。

さらに、例を挙げる (e.g. *citrus fruits = oranges, lemons, grapefruit, etc*) と意味の具体化と判断されるが、全ての構成要素を挙げれば (e.g. *the armed forces = the army, navy and air force*) 意味の分割化ということになるというのも恣意的であるように思われる。

②意味の操作と言語形式の操作との関連

また、意味の操作と言語形式の操作の組み合わせについては、既に指摘したように、上に特定したもので全てを網羅しているわけではない。

また、意味の操作と言語形式の操作とが一对一で対応していないことから、両者が異なる操作であることは明らかであるが、この2種類の操作を常に区別できるかどうかということには検討の余地がある。

③言語形式の操作間の関連

ある意味の操作は、同時に複数の言語形式の操作によって実現されていることも多い。例えば、「主語を変える」という操作が他のどのような言語形式の操作を伴うのかなどの検討が必要になる。

以上のような問題があるものの、このように意味の操作とそれを実現する言語形式の操作とに分類し、さらにそれぞれにカテゴリーを設定することによって、言い換えというものの本質が少し明らかになったと考える。この結果を基にして、言い換え指導の内容と方法について次に考察、提案したい。

4 言い換への指導の内容と方法

(1) 指導の方針

言い換え指導の方針を得るために、指導に関しては、CS よりも研究がはるかに進んでいると思われる学習方略に関する研究の成果を考慮することは非常に重要であると思われる。

学習方略の指導の効果に関する研究(Chamot and Rubin 1994, Cohen 1998)が明らかにしたところによると、指導の効果に影響を与える要因として、①指導の期間、②日常の授業の活動との統合の程度、③指導方法に関する専門的技術の開発、が挙げられる。

そこで、言い換への指導の場合も、体系的(様々な言い換へのパターンを認識し、習熟すること)、統合性(言い換への特別な活動としてではなく、通常の活動として授業に組み込むこと)、及び継続性(言い換への指導を長期間続けること)をその方針とすることが適切であろうと思われる。Cohen (1998)は、そのよ

うな指導を、「方略を中心とした指導」(strategies-based instruction: SBI) (①方略がどのように、いつ、なぜ言語使用に役立つのかを明示的に教える、②方略は日常の授業に統合され、言語使用課題に明示的、暗示的に埋めこまれる)と呼んでいる。

(2) 指導の具体的内容と方法

以上の指導方針を受けた言い換への指導内容としては、先の分析で明らかになった様々な言い換へのパターンがその主たるものとなるであろう。

指導の方法は、①言い換えということの意識化の活動、②教科書本文全てについて、その時点での既習言語項目を用いた言い換への練習をすること、また、教科書本文のいくつかについて、その時点での既習言語項目を用いて、同じ場面において自分だったらどのような意味を表出するか、またどのような言語項目で表出するのか練習すること、さらには、③新たな言語項目を学習した後にそれらを使用して以前より効率よく言い換へができないかを検討する活動を行うことが大切であると考えられる。

まず、①の意識化の活動として、ここでは、意味の操作からは「間接化」を、言語形式の操作からは「品詞を変える」ことを例に、意識高揚のための母語で行う練習例を挙げる。

意味の操作としての「間接化」については、どのような意味を代わりに表すことによって意図した意味が間接的に伝達できるのかを生徒に考えるよう促す。ここでは、前提や理由を述べる、過去の動作について尋ねる、理由を尋ねるなどによって間接的に依頼、命令、非難などの発話行為が行えることに注目させ、実際に英語での言い換へを促す。ただし、英語では様々なレベルのものが混在した形になるので、学習者の英語のレベルに相応しいものだけを選択して行うことが必要となる。

同様に、「品詞を変える」という言語形式の操作に関しては、名詞→動詞、名詞→形容詞、副詞+動詞→形容詞+名詞及び複合(名詞→動詞、動詞→形容詞)というような品詞を変える操作の中で主語を変えたり、節に変えたりする操作を体験させる。

②の既習言語項目を使った言い換へ練習に関して、Appendix 2は、中学校教科書の各学年からある一課を選択し、その本文一つひとつが既習言語項目を駆使して、先に特定された言い換へのパターンを使って言い換へることができるのかを確かめるために、言い換へ例を示したものである。意味の操作及び言語形式の操作を全てに付しているが、既に問題点を指摘したように、あくまで目安であって厳密なものではない。

既習言語事項との関係で、かなり制約はあるものの、教科書の各文はなんとか言い換へが可能であること

が分かった。

ただし、そこに示したものは、既習事項を最大限に活用し、できるだけ元の文が表す意味を損ねないように配慮した言わば「最適解」であり、他にも様々な言い換えが可能であることは言うまでもない。

授業における指導手順における位置付けとしては、本文の聴解、読解、新出文法項目の説明・練習が終わってからの活動となるであろう。

また、③の新しい言語項目を学習して後に既習の課に戻って言い換えの練習をする意義については、次の例で明らかであろう。すなわち、‘in an hour’という難しい語句を含む下の例文は、その時点での既習言語項目で言いかえるとすると、a.の文のようにその語句が表す意味の部分を削除する(=「単純化」)という操作によることになるであろうが、‘need’や‘take’を学習してからであると、b.やc.のように2文に分けること(=「分割化」)による言い換えが可能になる。

You can go up to the top of the rock *in an hour*.

- a. You can get to the top of the rock.
- b. You can climb the rock. You *need* one hour.
- c. You can go up to the top of the rock. It *takes* one hour.

5 おわりに：今後の課題

以上、言い換えのパターンの分析に基づいた言い換えの指導の内容と方法を提案した。これまでに行なわれてきた数多くの研究のように、十分に指導内容及び方法を検討することなく性急に指導の効果を検証することを追い求めるべきではないが、本論で提案した言い換えの指導内容と方法は、今後授業実践を通して、その適切性を判断し、修正を行う必要がある。

その際、言い換えのパターンとその捉えかた及び言い換え能力の伸長を測定する方法も十分に検討する必要があるだろう。また、言い換え以外のCSとの指導の統合も検討課題となる。

註

1)本論は、平成9,10年度文部省科学研究費補助金(基盤研究(C) 課題番号 09680271 研究代表者：岡山大学教育学部 高塚成信)を受けて行った研究の一部である。

参考文献

- Brown, H., C. Yorio, and R. Crymes (eds.) (1977) *On TESOL '77*. Washington, D.C.: TESOL.
- Charmot, A.U. and J. Rubin (1994) Comments on Janie Rees-Miller's "A Critical Appraisal of Learner Training: Theoretical Bases and Teaching Implications," *TESOL Q*, 28, 4, 771-776.
- Cohen, A.D. (1998) *Strategies in Learning and Using a Second Language*. London: Longman.
- Dörnyei, Z. (1995) On the teachability of communication strategies. *TESOL Q* 29, 1, 55-85.
- Dörnyei, Z. and S. Thurrell (1991) Strategic competence and how to teach it. *ELTJ* 45, 1, 16-23.
- Dörnyei, Z. and S. Thurrell (1992) *Conversation and Dialogues in Action*. New York: Prentice Hall International.
- Dörnyei, Z. and M.L. Scott (1997) Communication strategies in a second language: definitions and taxonomies. *LL* 47, 1, 173-210.
- Electronic Oxford Wordpower Dictionary, The.* (1995) Oxford: Oxford University Press.
- Færch, C. and G. Kasper (1983) Plans and strategies in foreign language communication. Færch, C. and G. Kasper (eds.) (1983:20-60).
- Færch, C. and G. Kasper (eds.) (1983) *Strategies in Interlanguage Communication*. London: Longman.
- 平野絹江 (1992) 「日本における英語教育の将来—speakingにおけるコミュニケーション方略の指導と実践」『中部地区英語教育学会紀要』21, 265-270.
- 平野絹江 (1993) 「コミュニケーションにおける『態度』の指導と評価—コミュニケーション方略を中心にして」『現代英語教育』6月号、12-15.
- Imajo, A. (1997) A study of "paraphrasing" verbs by using the word definitions of *Longman Dictionary of American English* and its pedagogical implications. Unpublished MEd Thesis, Graduate School of Education, Okayama University.
- 梶原 敏、徳山順子、石田 隆 (1996) 「英語で積極的にコミュニケーションを図る生徒を育てる指導法の研究—方略的技能の指導を通して—」『岡山大学教育学部附属中学校研究紀要』第27号、243-266
- Kasper, G. and E. Kellerman (1997) Introduction: approaches to communication strategies. Kasper, G. and E. Kellerman (eds.) (1997: 1-13).
- Kasper, G. and E. Kellerman (eds.) (1997) *Communication Strategies: Psycholinguistic and sociolinguistic*

perspectives. London: Longman.

Kitajima, R. (1997) Influence of learning context on learners' use of communication strategies. *JALT Journal* 19, 1, 7-23.

小林俊一郎、猿渡香奈子、蔵元昭二、中森孝一、鶴田昌子、川上隆博、折田 充(1996)「中・高連携の視点からみた、コミュニケーションの方略的能力の育成」*STEP Bulletin* 8, 55-65.

Konishi, K. (1994) An analysis of *Longman Active Study Dictionary of English* in terms of its word definitions: its pedagogical implications. Unpublished MEd Thesis, Graduate School of Education, Okayama University.

Murphy, R. (1994) *English Grammar in Use* (Second Edition). Cambridge: Cambridge University Press.

Nelson, E. (1989) Teaching communication strategies. Unpublished manuscript, Minnesota English Center, University of Minnesota.

千田正三 (1996) 「高校生におけるコミュニケーション方略の指導の効果に関する実証的研究」上越教育大学大学院学校教育研究科言語系コース (英語) 『研究論集』 11, 97-111.

高塚成信 (1995) 「コミュニケーション方略の指導—『方略シラバス』の構想—」『岡山大学教育学部研究集録』第 98 号、171-185.

Takatsuka, S. (1996) Teaching communication strategies: A lesson aimed at teaching post-modifying structures for paraphrase. *Bulletin of the Faculty of Education*, Okayama University, 102, 165-184.

高塚成信 (1997) 「コミュニケーション方略の指導—文法的問題の回避と解決—」『岡山大学教育学部研究集録』第 106 号、119-131.

高塚成信 (印刷中) 「文生成における語彙的・文法的問題の global solutions」『岡山大学教育学部研究集録』第 109 号。

Tarone, E. (1977) Conscious communication strategies in interlanguage: a progress report. Brown, H., C. Yorio, and R. Crymes (eds.) (1977:194-203).

Tarone, E. and G. Yule (1989) *Focus on the Language Learner*. Oxford: O.U.P.

Willems, G. M. (1987) Communication strategies and their significance in foreign language teaching. *System* 15, 3, 351-364.

Williams, J., R. Insoe, and T. Tasker (1997) Communication strategies in an interactional context: the mutual achievement of comprehension. Kasper, G. and E. Kellerman (eds.) (1997: 304-322).

Appendix 1

EOWD 及び EGU における言い換え例

①なし : ⑦同意語 (表現) を使用する
すっきり目覚めて

wide awake→completely awake (EOWD: awake)

①なし : ⑤品詞を変える、⑨句を節に変える
計画通りに

Everything went off according to plan.→
Everything went off as we had planned it.
(EOWD: according to)

誕生時に

at birth→when it was born (EOWD: birth)

①なし : ②態を変える

ミラー氏は待たされるのが嫌いだ

Mr. Miller hates being kept waiting.→Mr.
Miller hates people keeping him waiting.
(EGU: 86)

①近似化 : ④類義語 (表現) を使用する、②関連語 (表現) を使用する

食欲をそそる

give you an appetite→make you hungry
(EOWD: appetite)

感情を害する

hurt one's feelings→make one unhappy
(EOWD: feeling)

②一般化 : ①上位語 (表現) を使用する

(牛の) 群れ

a herd of cattle→a group of cattle (EOWD: herd)

③具体化 : ⑤下位語 (表現) を使用する

柑橘類

citrus fruits→oranges, lemons, grapefruit, etc
(EOWD: fruit)

アルファベット順に

in alphabetical order→from A to Z (EOWD: encyclopedia)

隔日に

every other day→on Monday, Wednesday, Friday, etc (EOWD: every)

③具体化：②関連語（表現）を使用する
 外食する
 go out for a meal→go to a restaurant (EOWD:
 go)

③具体化：②数字を使用する
 直角
 a right angle→an angle of 90° (EOWD: angle)
 20世紀に
 in the 20th century→in the period between
 the years 1901 and 2000 (EOWD: century)
 遅れている
 That clock is five minutes slow.→That clock
 says 10.55 when it is really 11 o'clock. (EOWD:
 clock)
 4時間毎に
 every four hours→at 8, 12, 4, etc (EOWD:
 every)

③具体化：②関連語（表現）を使用する、②主語を変
 える
 彼は食べ物にとてもうるさい
 He is very fussy about his food.→There are
 many things which he does not eat.(EOWD:
 fussy)
 それは私の視野の外にある
 It's outside the field of my vision.→I can't see it.
 (EOWD: field)

④単純化：②語を削除する
 ～にちがいない
 She must have travelled a lot.→She has travelled
 a lot.

⑤複雑化：②語を追加する
 スーのところに
 at Sue's→at Sue's house (EOWD: at)

⑥相対化：④反意語（表現）を使用する（否定する）
 真昼に
 (in) broad daylight→not at night (EOWD:
 daylight)
 彼女は結婚するには若すぎる。
 She is too young to get married.→She is not old
 enough to get married. (EGU: 204)
 フレッドは月曜日までいません
 Fred will be away until Monday.→Fred will be

back on Monday.(EGU:238)
 私は彼の名前を忘れた
 I've forgotten his name.→I can't remember his
 name now. (EGU: 14)

⑥相対化：④反対語（表現）を使用する、②主語を変
 える
 XはYの甥
 X is Y's nephew→Y is X's uncle/aunt
 XはYから生じる
 X resulted from Y→Y caused X

⑥相対化：④ダイクシスを使用する
 20世紀に
 in the 20th century→in this century

⑥相対化：②態を変える
 彼女の作品の質に満足した
 I was completely satisfied with the quality of her
 work.→The quality of her work satisfied me
 completely.

⑦絶対化：②数字（時刻）を使用する（ダイクシスの
 使用をやめる）
 10分前に
 ten minutes ago→at xx:xx
 一時間後
 in an hour→at xx:xx

⑧分割化：④品詞を変える、⑤複数の語や文で表現す
 る
 みんなが信じていること
 popular belief→what many people think
 (believe) (EOWD: contrary to)

⑧分割化：⑤複数の語や文で表現する
 問題はだんだん難しくなるよう配列されてい
 る
 The questions are arranged in ascending order of
 difficulty.→(The easiest questions are at the
 beginning and) the most difficult ones are at the
 end. (EOWD: ascending)
 隔週勤務
 He works alternative weeks.→He works the first
 week, he doesn't work the second week, he
 works again the third week. (EOWD: alternative)
 映画に行ったまま

They've gone to the cinema.→They went to the cinema and have not yet come back. (EOWD: been)

緊張してどうしようもない

I can't help being nervous.→I'm so nervous. I can't help it (EGU: 112)

～に中毒になる

become addicted to X→can't stop using X
(EOWD: heroin)

⑩間接化 (喩える) : : ⑦関連語を使用する
困難を切り抜ける

manage to overcome difficulties→land like a cat

⑨統合化 : ②単一の語や文で表現する

皮がむける (はがれる)

My nose got sunburnt and now the skin (of the nose) is coming off.→My nose got sunburnt and now it is peeling. (EOWD: peel)

知らなくて残念 (仮定法を使用する)

I don't know Paul's phone number and I regret this.→I wish I knew Paul's phone number. (EGU: 76)

映画に行ったまま (現在完了を使用する)

They went to the cinema and have not yet come back.→They've gone to the cinema. (EOWD: been)

⑪直接化 (喩えをやめる) : ⑦関連語 (表現) を使用する

鉄の意志

an iron will→a very strong will (EOWD: iron)

⑪直接化 : ②語を削除する

右から一つ除いて最初

the first house but one on the right→the second house on the right (EOWD: first but one)

⑪直接化 : ③文の種類を変える

もう少し早く来てくれればなあ

I wish you could come earlier→Could you come earlier? (EOWD: could)

⑩間接化 (前提・理由を述べる) : ⑦関連語 (表現) を使用する

やっと来ることに決めた

You decided to come after all.→I thought you weren't going to come. (EOWD: after all)

～と信じるのは間違い

It is a fallacy to believe...→It is not true... (EOWD: fallacy)

紹介はいらない

Well, you don't need an introduction to each other, do you?→You already know each other. (EOWD: introduction)

急ぐ必要はない

There is no need to hurry.→We've got plenty of time. (EGU: 166)

私のかばんどこにあるか知ってますか

Do you know where my bag is?→Have you seen my bag? (EGU: 14)

南極にさえ行ったことがある

She has even been to the Antarctic.→She must have travelled a lot. (EGU: 222)

⑩間接化 (帰結を述べる) : ⑦関連語を使用する
何枚撮り

How many exposures are there on this film?
→How many photographs can I take (with this film)? (EOWD: exposure)

Appendix 2

⑧ : ㊦

教科書本文の言い換え例

(本文のイタリック体は、潜在的に言語表出上あるいは言語理解上問題となる可能性のある語彙、文法項目であることを示す。)

Sunshine English Course Book 1

Program 11

Section 1

- (1) *What's the matter*, Ann?
Are you O.K.? ① : ㊦
- (2) Are you *sad*?
You are not happy? ⑥ : ㊦
- (3) Well, I *practice* tennis every day.
Well, I play tennis every day. ① : ㊦
- (4) But I'm *still poor* at it.
But I can't play tennis very well. ④ : ㊦、⑥ : ㊦
- (5) *Don't worry*, Ann.
That's O.K., Ann.
That's not bad, Ann. ⑩ : ㊦
- (6) You *can* swim very well.
You swim very well. ④ : ㊦
- (7) You *can* play the piano very well, *too*.
You play the piano very well. ④ : ㊦

Section 2

- (1) Ann, this is my *favorite* poem.
Ann, I like this very much. ① : ㊦、④ : ㊦、⑥ : ㊦
- (2) *Robins* can fly, but they can't swim.
Birds can fly, but they can't swim. ② : ㊦
- (3) *Dolphins* can swim, but they can't fly.
Fish can swim, but they can't fly. ① : ㊦
- (4) You can't do this, but you can do that.
You can't play tennis very well, but you can swim very well and you can play the piano very well. ③ : ㊦
- (5) I can't do that, but I can do this.
I can't swim very well, but I can write very well. ③ : ㊦
- (6) We're all *different*, but that's O.K.
I'm not you and you're not me, but that's O.K. ⑧ : ㊦
- (7) We're all *unique*, and we're all happy.
I'm not you and you're not me, and we're all happy.
I'm Pat and you're Ann, and we're all happy.

Section 3

- (1) That's a nice *poem*.
That's nice. ④ : ㊦
- (2) *By the way*, can you *guess* the writer?
Do you know the name of the writer?
Who is the writer? ① : ㊦、④ : ㊦
- (3) No, I can't.
No, I don't.
I don't know. ⑩ : ㊦
- (4) Don't give up. *Guess!*
Try. ⑥ : ㊦、④ : ㊦
- (5) Well...*is it* you?
Are you the writer? ⑥ : ㊦
- (6) Right!
Yes. ① : ㊦
- (7) I'm not *good at* sports, but I can write poems.
I can't do sports very well, but I can write poems. ① : ㊦
- (8) I'm a *poet*, and I'm very happy.
I (can) write poems ⑧ : ㊦㊧

Sunshine English Course Book 2

Program 3

Section 1

- (1) Today, I'm *going to* talk to you about Australia.
Today, I'll talk about Australia. ① : ㊦、④ : ㊦
- (2) It's an *interesting* country.
It's a beautiful country.
Australia is beautiful. ① : ㊦
- (3) Are you going to talk about *koalas and kangaroos*?
Are you going to talk about animals in Australia? ⑩ : ㊦
- (4) Oh, yes.
- (5) But *first of all*, look at this picture.
But look at this picture first. ⑩ : ㊦
- (6) It's Ayers Rock, a *famous* rock in Australia.
It's Ayers Rock. Many people know (about) the rock in Australia. ⑧ : ㊦
- (7) It *looks like* a hill!
It is like a small mountain! ② : ㊦、⑧ : ㊦

Section 2

- (1) Ayers Rock is a very big rock.
Ayers Rock is very big. ⑩ : ㊦

- (2) You can *go up to the top of the rock in an hour*.
You can get to the top of the rock. ① : ㊦、④ : ㊧
- (3) But you must watch your step all the way.
But it isn't easy. ④ : ㊧
- (4) The rock has a lot of caves
You can go into the rock. ⑪ : ㊧
- (5) Some of the caves have pictures on their walls.
The rock has pictures in it. ① : ㊧、④ : ㊧
- (6) They tell the old stories of the *Aborigines*.
They tell the old stories of the old people in Australia.
① : ㊦、⑧ : ㊮
- (7) The rock is a *holy* place for the *Aborigines*.
The old people in Australia like the rock very much.
① : ㊧㊨
- (8) You *mustn't* go into some of the caves.
Don't go into the rock.
You can't go into the rock. ① : ㊧

Section 3

- (1) I'll *show* you some *slides* of a koala park to you.
Here I have some pictures of a koala park.
① : ㊦、⑩ : ㊧
- (2) Koalas are *sensitive* animals.
Koalas like dark nights.
Koalas don't like mornings or afternoons. ⑧ : ㊮
- (3) They sleep *during the day*.
They sleep in the afternoon. ③ : ㊥
They don't sleep at night. ⑥ : ㊫
- (4) Mr. White, I have a question.
Mr. White, can I ask you a question? ⑪ : ㊴
- (5) Yes, Manami.
Yes, Manami. What is it? ⑤ : ㊤
- (6) Can you still see koalas *in the wild*?
Can you see koalas only in the koala park? ⑥ : ㊫
- (7) Yes, you can, but *not very many*.
Yes. You can see some koalas. ⑥ : ㊫

Section 4

- (1) Look at these *road signs*.
Look at these (signs). ④ : ㊤
- (2) What do they *mean*?
What do they say? ① : ㊦
- (3) They *mean*: "*Be careful of wild animals*."
They say, "*Don't drive fast*." ⑩ : ㊧
- (4) *There're* a lot of *wild* animals in Australia.
A lot of animals live in Australia.
You can see a lot of animals in Australia.
④ : ㊧、⑩ : ㊧㊨

- (5) They often *run out on* the road.
They often come to the road. ② : ㊦
- (6) I see.
Yes. ① : ㊧
- (7) So we *mustn't* drive fast.
So don't drive fast. ① : ㊧
- (8) We must drive *carefully*.
- (9) Yes. That's right.
Yes. ④ : ㊧

Sunshine English Course Book 3

Program 2

Section 1

- (1) Wow! I've *never* seen such a beautiful *sight*.
This is a very beautiful place. ④ : ㊦㊧
I saw this beautiful place for the first time.
⑥ : ㊦㊧
- (2) The cherry *blossoms* are *at their best*.
There are many cherry flowers. ② : ㊦、⑩ : ㊧
We can see many cherry flowers. ② : ㊦、⑩ : ㊧
- (3) But they'll *fall in a few days*.
But there will be no flowers very soon.
① : ㊦、⑩ : ㊧
But we will not be able to see them very soon.
① : ㊦、⑩ : ㊧
- (4) So soon?
Really? ② : ㊦
Is that right? ② : ㊦
- (5) In my town they *last for more than* two weeks.
In my town we can see them for a few weeks.
④ : ㊧、⑩ : ㊧
- (6) Is that right?
So long? ③ : ㊧
Really? ① : ㊦
- (7) Do you *also go out* to look at cherry blossoms?
Do you go to see cherry flowers, too?
① : ㊦、② : ㊦
- (8) No, we don't. But a lot of people *visit rose gardens in June*.
No, we don't. But a lot of people go to see flower gardens in the summer. ① : ㊦、② : ㊦

Section 2

- (1) Are roses the most *popular* flowers in England?
Do people in England like roses the best of all flowers? ① : ㊦、⑥ : ㊦㊧
- (2) Yes, they are. *In fact*, the rose is our *national* flower.
Yes, they do. The rose is the flower of England.

- ①③ : ㊥、④ : ㊦
- (3) What's yours?
What is the flower of Japan? ③ : ㊥
- (4) Cherry blossoms, I think.
Cherry flowers. ② : ㊧
- (5) They've been very special in our *culture*.
They've been the most popular flowers in Japan
① : ㊨、② : ㊧
- People in Japan (We) like them very much. ⑥ : ㊦
- (6) Often we just say "flowers" when we mean "cherry blossoms."
We often just say "flowers," not "cherry flowers."
② : ㊧、④ : ㊦

- (7) I know an old *haiku* by Basho:
This is Basho's old short poem: ⑥ : ㊦、⑧ : ㊨
- (8) "Clouds of flowers!
A lot of flowers! ⑩ : ㊦
- (9) Where is the bell from, Ueno or Asakusa?"
Is the bell from Ueno or (from) Asakusa? ① : ㊨

Section 3

- (1) Do you see the cherry blossoms on this coin?
This coin has some cherry flowers on it.
② : ㊧、⑩ : ㊦
- (2) Yes. That's interesting.
Yes. That's beautiful. ② : ㊨
- (3) We also have a coin with a flower on it. A rose.
A coin in England has a rose on it.
① : ㊦、⑨ : ㊨
- (4) You know, the rose and the cherry tree *belong to* the same family.
Do you know that the rose and the cherry tree come from the same family? ⑥ : ㊨、㊨
- (5) Right.
Really? ① : ㊨
- (6) We *have something in common*, then.
We have the same thing. ① : ㊦
- (7) It's *almost* noon.
It's about 12 o'clock. ① : ㊦、⑦ : ㊦
- (8) Shall we *take a break* at the restaurant *over there*?
Look, there's a restaurant. Let's have lunch there.
① : ㊨、③ : ㊥、⑧ : ㊨
- (9) It *looks quite new*.
Is it new? ② : ㊧㊦
It isn't old. ② : ㊧、⑥ : ㊦
- (10) Has it opened yet?
Is it open? ①④ : ㊥㊦
- (11) Yes, it has been open since Tuesday.

Yes, it opened Tuesday this week (this Tuesday).
① : ㊥

Yes, it opened X days ago.
① : ㊥

- Yes, it opened on X. ① : ㊥、⑦ : ㊦
- (12) All right.
O.K. ⑧ : ㊦
- (13) Let's go *and have lunch*.
Let's go. ④ : ㊦

Section 4

- (1) Look *over there*!
Look! ④ : ㊦
- (2) Someone is calling you, Kumi.
Do you know that woman, Kumi? ① : ㊨㊦
- (3) Oh, that's our aunt.
Oh, that's my mother(/father)'s sister. ⑧ : ㊨
- (4) Shall we go and meet her?
Let's go to see her. ⑧ : ㊦
- (5) But look at her.
But look. ④ : ㊦
- (6) *I'm afraid* that *hand gesture* means "go away."
Her hand (She) is saying, "Don't come".
④ : ㊦、⑥ : ㊦
- (7) No. It means "come here."
No. It (She) is saying, "Come here." ⑧ : ㊦
- (8) She's *inviting us over*.
She's saying, "Come here". ⑧ : ㊦
- (9) She *loves to meet* people.
She likes to see people. ⑧ : ㊦
- (10) She *likes travelling*.
She likes to travel. ⑧ : ㊦
She likes to visit many places ⑧ : ㊨
- (11) She *has been to Europe three times*.
She went to England. ③ : ㊥、④ : ㊦
- (12) Really?
Oh, did she? ⑧ : ㊦
- (13) Let's go and *join* her, then.
Let's go and see/meet her. ⑧ : ㊦

(平成10年11月2日受理)